

【ねがいましては】

第93号

平成9年3月25日

共和珠算学習塾

「好循環」

よくボランティアという言葉を耳にします。阪神淡路大震災の時、原油流出事故時など、多く見られました。和訳では「無償援助活動」または「無償社会奉仕活動」などとでもいうのでしょうか。現在では「ボランティア」は、日本の中に外来語として根付いているように思います。

では、このボランティアは昔から日本においてなかったのかというと、そうでもないようです。日本古来の文化の中に、ご近所での火事やお葬式など、近所の旦那さんや奥様方はこぞつてお手伝いをされていると思います。お年寄りや困った方々に手を差し伸べることは当然のこととして存在していたと思います。当然だからこそそれにふさわしい言葉も存在しないのかもしれません。道に迷った方がいれば、その方に説明してさし上げる。ひとり泣きながらさまよっているお子さんがいれば、そっと声をかけてあげる。消しゴムを忘れてしまい、困っている隣の子のつくえにそっと消しゴムを置いてあげる。どれも時間の長短はあるのかもしれませんのが、気持ちは同じだと思います。

長時間にわたり自らの時間を割きお手伝いをする。それがボランティアの定義になるのでしょうか。今までの日本人の生活の中に、自分の就労時間を割いてまで社会奉仕をするという余裕がなかったのかもしれません。当然行政機関の力で、ボランティア期間中であってもある程度給与が保障される的な制度があれば、またボランティアの歴史も少し変化していたのかもしれません。

助け合いの中には「おもいやり」が隠れ、「やさしさ」がそっと隠れています。めだたぬよう、「そっと」・・・。「ひと」のためになることを、小さなことでもすすんでやりましょう。小学校の朝礼の際、よく校長先生から聞かされました。おじいちゃんやおばあちゃん、父や母から言われたと思います。

ひとのために何かしてあげられることがあったのならしてあげよう。「迷惑をかけなければ別に何もしなくてもいいんじゃない」のような消極的な気持ちではなく、「もう一步先へ踏み込んで・・・」そんなこころが自然に宿っていければと思います。

それぞれが「そういえばあの方から〇〇〇なことをしていただいたな。そうか、それじゃ、わたしもそれにこたえて〇〇〇をしてあげよう」。

「テストで一番をとる」「試合で勝つ」もいいのだけれど、今の社会、「ひと」と「ひと」が支え合って生活している以上、「受け取ったら、ひとつ増やしてお返しする」の気持ちで日々の生活を過ごせることができたらと思います。

それでは、さっそくお母さんのところ行ってお手伝いをしよう。

◇4月の予定

3月25日（火）検定試験合格発表

26日（水）上野動物園遠足

27日（木）ボウリング大会

4月 5日（土）そろばん新学期スタート

7日（月）学習科新学期スタート